美術科学習指導案

科目	授業学級	授業場所	使用教科書	授業者
構成	１年８組（美術科）彫刻パート （男子３名，女子 10 名）	芸術棟 彫刻室	美術 表現と技法 日文（補助教材）	宮薗広幸

１　題材名

立体構成（塑造）

２　題材の目標

造形的な創造活動の基本となる諸要素の理解を深め，感性や造形感覚と創造的な構成の能力を高める。

３　題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
主体的，創造的に構成の学習に取り組もうとする。	美的秩序について理解を深め，表現方法を創意工夫している。	立体表現をするために必要な造形感覚や専門的な技能を身につける。	形体の特徴などを理解し，立体表現のよさや美しさを創造的に味わう。

４　題材の指導計画（全 12 時間）

時	学 習 項 目	学　習　内　容	主な到達目標
①	●オリエンテーションⅠ (他パート合同)	○美術科必修科目「構成」について ○平面と立体の表現	・表現を構成する美的秩序等について理解を深め，感性や造形感覚，創造的に構成する意欲を高める。
②	●オリエンテーションⅡ	○彫刻の表現方法 ○彫刻の材料 ○彫刻の制作	・構成の特徴や魅力について理解し，立体表現の技法や素材の広がりについて知る。
③	●表現Ⅰ	○塑造について ○模刻について ○粘土について	・塑造の特徴について学び，粘土の保存法や道具等について知り，模刻の準備をする。
④	●表現Ⅱ	○デッサン ○台座	・異なった方向から，形の特徴を見ながらデッサンをする。 ・等倍の台座をつくる。

⑤ ⑥ ⑦	●表現Ⅲ ●表現Ⅳ ●表現Ⅴ	○制作（粗づけ）	・適切な量と硬さの粘土を用いて，形を大つかみに捉え，粗づけをする。
⑧ ⑨ ⑩	**●表現Ⅵ（本時）** ●表現Ⅶ ●表現Ⅸ	○制作（細部）	・量，面，均衡，動勢，空間，質感など造形的な要素を理解する。 ・常に全体のバランスを確かめながら細部をつくる。
⑪	●表現Ⅹ	○制作（仕上げ）	・意図していたものが形として十分に表現できたか。塑造の特性，工夫したこと，制作上の課題等をまとめる。
⑫	●鑑賞・まとめ	○ 相互作品鑑賞 ○ まとめ	・構成について理解を深め，主体的に意見をもち討論や論評ができる。

5　題材観

本年度からの学習指導要領改訂にともない，美術科教育課程の見直しを行った。選択科目における個性の伸長や，多様化した美術表現に適応した学習経験をさせるため，本年度からクラフトデザイン（木工と陶芸），映像メディア表現，彫刻の基礎を学期毎に経験できるようにした。「絵画」と「ビジュアルデザイン」はそれぞれ２単位ずつ履修するが「構成」は，１単位を３パートで持つため，徹底した指導内容の精選を図らなければならない。

6　生徒観

美術科１年生のアンケート調査によると，中学校における「彫刻」の経験は半数以下（42%）しかない。約８割（78%）が，立体的な表現活動を経験しているが，壁飾りやハンガーのレリーフ，篆刻などの「クラフトデザイン」であった。また使用した材料は，木（62%），粘土（40%），紙（22%），石（19%）である。絵画やデザインの表現経験に対し，立体表現の経験が少ないために，モデリングやカービング及び立体構成の特徴を正しく理解しているとは言えない。

7　指導観

２年次から専門科目を選択するにあたり，１年次に立体表現の特徴や材料などについて広く学ぶことは重要であり，美的要素について様々な視点で経験し理解させることは，美術科指導の基軸である。特に塑造による写実的な表現を希望する生徒は，年々増加しており毎年10名前後は２年次に彫刻を選択している。これらの生徒の感性や造形感覚と創造的な構成の能力を高めさせるには，美的秩序と表現方法についての幅広い指導が必要であると考えた。

８　本時の実際（８/１２）

(1)　本時の題材名

塑造の細部をつくる

(2)　本時の学習目標

・　量，面，均衡，動勢，空間，質感など造形的な要素を理解する。

・　常に全体のバランスを確かめながら細部をつくる。

(3)　本時の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
塑造の特徴などに関心をもち意欲的に学習している。	細部の表現技術や形体，構成などを工夫して，創造的な表現の構想を練っている。	粘土や用具の効果的な使い方，量，面，均衡，動勢などを意図した表現ができる。	細部の形体と部分のマッスを考察し，全体のバランスについての理解を深めている。

(4)　研究テーマとの関係

科目「構成」において実際に塑造を体験させることにより，平面以外への美的体験を深めさせ，生徒の個性や興味関心に応じ創造的に表現しようとする意欲を高めさせる。

(5)　準備（生徒）体育服（活動しやすい服），タオル，竹ベラ，はかり棒

（教師）粘土，粘土板，ビニル，塑造の参考図版，タイマー

(6)　本時の展開

指導過程	学習内容・活動	指導上の留意点・評価方法
導入 （10 分）	**１　前時の復習をする** ○　粘土の取扱が適切にできているか確認する。 **２　本時のめあてを知る** ○　細部に取りかかる際の留意点と注意事項を聞く。 ○　部分と全体のバランスについて知る。	・　粘土の状態や塑造の準備ができているかを確認させる。 ◆　粘土の乾燥や不具合等がないか。 ◆　教材などの準備ができているか。 ・　本時の学習課題を知らせ，学習意欲を高めさせる。 ◆　量，面，均衡，動勢，空間，質感などの美的要素について，造形的な観点で認識できたか。

展開 （35 分）	**３　塑造する** ○　必要に応じてヘラやはかり棒などを使用する。 ○　多方向からモデルをよく見て，部分と全体の関係を考える。 （３～４名で一つのテーブル１体のレリーフを使用） （多方向からモデルを自由に見られるように立ったままで作業する）	・　10 分毎にモデルの向きを変えながら，よく見てつくらせる。 ◆　対象を正面だけでなく，多方向から見て立体的に捉えることができるか。 （石膏レリーフのモデルを各テーブルに置き、グループ毎に制作） （生徒は，ヘラ，はかり棒を使用）
	４　補足説明を聴く ○　塑像の参考図版やデモンストレーションを見て，課題点を探る。	・　基本形，量感，動勢やマッスなどの観点から形を確認させる。 （教師は，粘土で仕上げた表面の質感が分かる図版を使用） ◆　均衡や比率，形の違いなどを確認できたか。
	５　細部をつくる ○　表面的な質感よりも内面から外へ伝わる面の形を重視して細部をつくる。	・　全体のマッスと部分の均衡を保ちながらモデリングさせる。 ◆　表面的な処理に依らず，形をマッスとして捉え，また粘土の可塑性を生かしてつくったか。
まとめ （5 分）	**６　制作を振り返る** ○　塑造における形体の特徴をまとめる。 ○　後始末 ○　次時の予告と準備の確認	・　立体表現における美的要素を振り返り確認させる。 ・　次時の学習計画を伝える。 ◆　粘土など適切に後始末ができたか。 ◆　教師の説明が理解できたか。